

ヤマメ (サクラマス)

Salmo (Oncorhynchus) masou masou

サケ科



ヤマメ

名前の由来

ヤマメは、「山魚」と解して山に棲む魚とする説や、「山女」と解して山に棲む美しい魚とする説がある。別名：ヤマベ(北海道・東北)。サクラマスは、桜の咲く頃に川へ遡上してくるマスという意味。マス(鱒)は「増す」でその繁殖力が旺盛なことから。漢字名：山魚(山女)、桜鱒

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

ヤマメとサクラマス

どちらも同じ種であるが、降海して産卵遡上するものをサクラマス、降海前の幼魚と降海しないで河川に残るものをヤマメという。

特定種

北海道レッドデータ…留意種(N)

形態的特徴

脂ビレをもつ。(脂ビレとは背ビレと尾ビレの間のヒレで、サケ科、キュウリウオ科《アユの仲間も含む》、熱帯魚のカラシン亜目にも見られる。条《スジ》がない)

〈ヤマメの特徴〉

体長30cm。吻(口先)がまるく、尾ビレの切れ込みが少し深い。背部はわずかに緑色を帯びた黄褐色で、腹面は白色。体側に7~10個のパーマークを持ち、側線に沿って淡い赤

紫色の渋滞がある。背部から側線にかけて黒点が散在する。河川残留個体は成熟してもパーマークが残る。

〈サクラマスの特徴〉

体長60cm。海で暮らす成魚は銀白色で、背面と背ビレ、脂ビレ、尾ビレに黒点が散在する。産卵期になると体色は黒ずみ、桜色のまだら模様が現れる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期(河川)												
孵化期(河川)												
幼魚期(河川) (ヤマメ)												
〈ヤマメ〉 成魚期(河川)												
産卵												
オスは繁殖後数年生きる												
〈サクラマス〉 降海期(河川)												
沿岸域(海)												
オホーツク海												
沿岸域(海)												
春遡上期(河川)												
川の深みで停滞(河川)												
秋遡上(河川)												
産卵												
産卵後死ぬ												

類似種と見分け方

ニジマス（特に幼魚）。

ニジマスは黒色の小斑点が背側半分あるいは全面に多く存在する。特にニジマスの幼魚にはパーマークがあり、ヤマメと混同しやすいが、ニジマスの方には背ビレや尾ビレな



ヤマメ

どの黒点が著しく多くあることや、尻ビレの軟条（スジ）数がニジマスは8～12本なのに対して、ヤマメは13～15本あることで区別できる。



類似種のニジマス。背ビレや尾ビレの黒点が多い

一 生

〈ヤマメの一生〉

北海道では川に残って成熟するのは、ほとんどオスの一部だけだという。（オスメスともに川に残るのは、主に北陸以南《日本海側》と千葉県以南《太平洋側》で、北海道では良留石川《らるいしがわ》で知られている。環境条件の良好な河川にヤマメの放流が行われ、一部の残留型個体が河川上流域に生息することも考えられる《妹尾優二》）

産卵はかなり上流で8月中旬～10月上旬（北海道）におこなわれ、11～12月にふ化、翌春、雪解け増水の収まりかけたころ（3月下旬から5月上旬）砂利から浮上、流れて河川全域に分散する。はじめは流れの緩やかなところから、やがて流れの速いところへ移りなわばりを作り、流下小動物を採るようになる。

中でも成長のよい多くのオス（約半数）がこの年の秋に成熟し、一生川で生活するヤマメとなる。繁殖後も数年生きる。

〈サクラマスの一生〉

産卵はかなり上流で8月中旬～10月上旬（北海道）におこなわれ、11～12月にふ化、翌春、雪解け増水の収まりかけたころ（3月下旬から5月上旬）砂利から浮上、流れて河川全域に分散する。

はじめは流れの緩やかなところから、やがて流れの速いところへ移りなわばりを作り、流下小動物を採るようになる。夏・秋を越し、水温が5℃を下回る頃、翌春3月まで岸の

水面下がえぐれ、草木の茎や根が入り組んだところでひそみ越冬する（わずかながら餌は採るという）。雪解けが始まる頃に体色が銀白色になってパーマークが見えにくくなり（銀毛、スマルト）海に適した体に変化する。4～6月群れを作って海へ向かう。

降海後北上し7～10月オホーツク海で夏を越す。その後秋に再び日本沿岸に戻り越冬する。

翌春4月（北海道）頃雪解け増水とともに遡上が始まり、ピークは4～5月だが、まだ成熟していない。その後一旦本流や大きな支流の深みで餌も採らずに、約4ヶ月間成熟を待つ。そして8～10月の秋の増水期に、さらに上流の産卵場まで一気に遡上する。産卵後死亡する。



銀白色になった（スマルト化した）ヤマメ（サクラマス）

生息環境・分布

〈ヤマメの生息環境〉

中・上流の砂礫底。傾斜が急で大きな転石や岩盤からなっていて、淵と早瀬・落ち込みが交互に連続して現れるところ。水は極めてきれいで澄んだところで、真夏でも20℃を超えないような冷涼なところ。一般に魚影の濃いところの兩岸には広葉樹が多いという。越冬は岸がえぐれ、植物の根茎に枯れ草などが絡まったところ。

〈サクラマスの生息環境〉

春の遡上後、成熟を待つ間は、本流や大きな支流の深みで暮らす。産卵はできるだけ上流の河川水の浸透する砂礫底でおこなわれる。河川形態から見ると、水が浸透する場所が形成されるのは平瀬である（妹尾優二）。

分布：アムール川地方やカムチャッカ半島西部から南、朝

鮮半島南東部より北のオホーツク海と、日本海沿岸に分布する。

国内では日本海側では山口県以北、太平洋側では神奈川県以北と大分県の一部を除く九州。降海個体（サクラマス）がいるのは、北海道と北陸以北の日本海側と千葉県以北の太平洋側。それ以南は河川残留個体（ヤマメ）のみ。北海道では全域に生息。

十勝の河川に広く生息。（かつてに比べると非常に減ったという）残留型のヤマメは、河川の上流域に比較的多く見られる。環境条件の良好な河川にヤマメの放流が行われ、一部の残留型個体が河川上流域に生息することも考えられる（妹尾優二）。降海型のサクラマスの遡上はあまり見られない。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
ワシ・タカ
鳥類

食性

ヤマメは肉食性で、流下してくる水生昆虫（主にカゲロウ目と双翅目の幼虫）や落下昆虫などを食う。海洋のサクラ

マスは魚食性だが、河川に入り遡上を始めると、春から秋までの約4ヶ月の間餌を採らない。

繁殖生態

産卵期は8月中旬から10月上旬（北海道）、産卵場所は上流域の河川水の浸透する砂礫底で、淵から瀬に移るところ。産卵期には、体色は黒ずみ、桜色のまだら模様が現れる。特にサクラマスのオスは吻端（口先）が伸び上あご先端が下あごに被さるように曲がる。オスが先に産卵場に来てメスを待つという。メスが産卵床を掘る間、ペアになったオスは、他のオスやヤマメを追い払う。時には30尾以上のヤ

マメが群がることもあるという。産卵時には、ペアのオスとともに、これらヤマメも一斉に放精する。サクラマスは産卵後死ぬが、ヤマメは数年生き続ける。卵は球形で4～6mm。産卵数はサクラマスは1,000～4,000粒、ヤマメは100～1,000粒前後。1産卵床には35～120粒ほど。11月～12月にふ化。

他生物との関わり

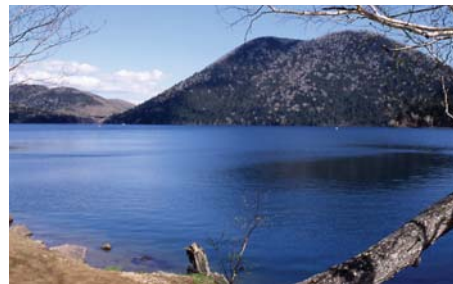
道南や道央ではアメマスより下流にすむが、道北や道東ではアメマス・オシヨロコマとともにすんでいる場合も多い。

一般にヤマメの魚影が濃い川の両岸には広葉樹が多いという。魚食性の動物の餌となると思われる。

興味深い話

- 海洋生活期・遡上開始直前のサクラマスは、極めて美味。焼いて醤油、塩焼き、ムニエル、フライ、冷凍してルイベ。
- ヤマメは淡泊な味わいで日本人好みともいわれる。塩焼き、バター焼き、田楽などで。寄生虫の心配があるので、加熱あるいは冷凍してから食した方がよい。
- 北海道ではオスの半数が川に残るため、降海、あるいは回帰するサクラマスのオスメスの割合は3対7となる。
- 然別湖では、銀毛化したヤマメが湖に「降湖」する。
- サケは産卵箇所に湧水が必要とするが、サクラマスは逆に湧水の豊富な河川での産卵は少ない傾向がある。サケは秋に産卵し、冬期間に積算水温で950℃以上をふ化・浮上のために必要とする。一方サクラマスは8月下旬～9月にかけて産卵するので、冬になる前にふ化できることになり、このため湧水豊富な河川を必要としないようだ。（妹尾）

- 十勝地方のアイヌ語では、ヤマメを「イコイチャンコロ チェポ」といい、サクラマスを「イチャニウ」と呼ぶ。
- アイヌ古来の漁法には、滝の下手にブドウの皮で編んだ袋網を仕掛け、滝を飛び越えそこなったサクラマスを受けて捕らえるというものがある。



然別湖。
ヤマメが降海ならぬ「降湖」するという

配慮事項

サクラマスは、サケやカラフトマスよりさらに上流で産卵するので、河口部から上流までの遡上ができるように、河川の縦断的連なりが必要である。産卵には淵と瀬のある、河川水が浸透した砂礫底、ヤマメには淵と早瀬・落ち込みが交互に連続して現れるところ、越冬には岸がえぐれ、植物の根茎に枯れ草などが絡まったところ、成熟を待つサクラマスには大きな川の深み、と様々な生息条件を必要とする。きれいで水温の低い水も重要

で、また水温上昇を防ぎ、落下昆虫や落ち葉などを供給し、隠れ場所も提供する広葉樹などのカバーも必要。遡上するサクラマスは全面禁漁。ヤマメ釣りは、降海期の5月1日～6月30日の間禁漁である（十勝を含む道東・道北。道南・道央は4月1日～5月31日）。また、糠平湖に注ぐ全河川では1年中禁漁。（その他の湖でも制限があるので要注意）

参考文献

- 「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)北海道海洋センター 1991
- 「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦 保育社 1990
- 「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001
- 「サケ・マス魚類のわかる本」井田齊・奥山文弥、山と溪谷社、2000
- 「動物名の由来」中村浩、東京書籍、1981
- 「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984
- 「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監

修、山と溪谷社 1989

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996

★ 妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

〈インターネットページ〉

「ようこそ似アイヌ言語文化研究所へ」

<http://city.hokkai.or.jp/~ayaedu/samawo/samawo02.html>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
ワシタカ